

令和6年度 墨田区立本所中学校 学校経営計画・経営報告書（自己評価・学校関係者評価）

作成者 校長 齊藤 伸治

学校教育目標	心豊かな、たくましい本中生の育成
目指す学校像	知、徳、体の調和のとれた豊かな人間性をもつ生徒
目指す生徒像	品格と活力がみなぎる、文武両道の学校
目指す教師像	高い使命感をもち、生徒の成長に貢献する教師

○令和6年度 学校経営計画における重点内容  
 (1) 安全・安心の基盤に立った教育環境の整備  
 (2) 生徒育成の基本的な考え: ①確かな学力の定着と向上 ②豊かな心の育成 ③生徒の体力向上と健康増進 ④特別な支援・配慮等を必要とする生徒への教育  
 (3) 保護者、地域との連携の推進

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価				
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等		
各教科指導等	確かな学力を育てるための分かりやすい授業を実施する。 ○個別最適な学習と協働的な学習の中で学習内容のアウトプットを行わせ、学力の定着を図る。	○タブレット端末の活用等により、毎回の授業内容に関するアウトプットを授業及び家庭学習で実施する。	4	教アで「アウトプットが学力の定着につながった。」等の肯定的な回答が90%以上	4	4	授業内容のアウトプットの実施率90%以上	4	教員のICT機器活用能力は高いレベルにあるが、生徒に関しては必ずしもそうとは言えない現状がある。Qubena(キューベナ)等のアクセス数の多いものは定着しているが、そうでないものに不慣れで使いこなせない。	各教科の中で文書作成、スライドの作成、作品制作等の力を伸ばしていくことが必要であるため、入学時にガイダンスの場を設定する。授業をエス数の多いものは定着しているが、生徒に思考の場を提供し、アウトプットスキルを獲得させていく。	A	A	・生徒の授業の様子を見てみると落ち着いている学校に思う。生徒の登下校も楽しそうにみんな話しながら歩いているのを見ることが好感がもてる。
			3	教アで「アウトプットが学力の定着につながった。」等の肯定的な回答が80%以上		3	授業内容のアウトプットの実施率80%以上						
			2	教アで「アウトプットが学力の定着につながった。」等の肯定的な回答が70%以上		2	授業内容のアウトプットの実施率70%以上						
			1	教アで「アウトプットが学力の定着につながった。」等の肯定的な回答が70%未満		1	授業内容のアウトプットの実施率70%未満						
	社会的自立に向けた進路指導・キャリア教育・相談活動等に取り組む。 ○3年間の系統的なキャリア教育を柱に、生徒のキャリア形成能力を育成する。	○キャリア教育全体計画に位置付けた校外学習、かしわ祭(文化祭)、職場体験等の教育活動について、地域の方々と連携の下で実施する。	4	教アで、「教育活動がキャリア形成能力の育成につながった。」等の肯定的評価が100%	4	4	キャリア教育年間指導計画の実施率90%以上	4	年間計画通りにキャリア教育を進めることができた。また、キャリア教育等に関する生徒アンケートでの肯定的回答が95%となった。今後も職業調べ、職場体験学習等と、確実な共通認識のもとで実施していく必要がある。	学校外の人材から学べる場を積極的に設定し、生徒の社会的な学びを高める活動を増やしていく。また、行事前後にはキャリアパスポートに確実に取り組み、活動の記録を残すことで、学びのさらなる向上を図る。	A	A	・学習状況も素晴らしい。中学校の授業の中で学習を頑張る、基礎が身に付いている。また、そのことが高等学校で生きている。今後も役立つ学びに期待している。
			3	教アで、「教育活動がキャリア形成能力の育成につながった。」等の肯定的評価が90%以上		3	キャリア教育年間指導計画の実施率80%以上						
			2	教アで、「教育活動がキャリア形成能力の育成につながった。」等の肯定的評価が80%以上		2	キャリア教育年間指導計画の実施率70%以上						
			1	教アで、「教育活動がキャリア形成能力の育成につながった。」等の肯定的評価が70%未満		1	キャリア教育年間指導計画の実施率70%未満						
	教員の指導力・授業力の向上のために組織的取組を行う。 ○コーチング指導を中心に、個別最適な学びを充実させる。	○全教員がコーチング指導に関する校内研究授業を実施する。	4	教アで「研究授業により個別最適な学びの充実につながった。」等の肯定的な回答が90%以上	4	4	コーチング指導中心の個別最適な学びの実施率80%以上	4	コーチング等の指導を中心に授業展開することで個別最適な学びを実施することができ、生徒アンケートの「指導内容を理解している」の回答が90%となった。生徒の主体性や自己理解については、継続課題である。	授業の導入の工夫や興味関心を高める補助教材の活用を通して、主体性を高めていく。また、「本時のねらい」、「振り返り」については掲示物の工夫による意識づけをしていく。	A	A	・時代とともに勉強方法も変わり、生徒たちは上手にタブレットを活用し上手にしている。ノートがタブレットに変わり、私自身感心するばかりである。生徒が一人一人「分かる」授業、先生方にはいろいろと工夫していただき、学力向上につなげてほしいと願っている。
			3	教アで「研究授業により個別最適な学びの充実につながった。」等の肯定的な回答が80%以上		3	コーチング指導中心の個別最適な学びの実施率70%以上						
			2	教アで「研究授業により個別最適な学びの充実につながった。」等の肯定的な回答が70%以上		2	コーチング指導中心の個別最適な学びの実施率60%以上						
			1	教アで「研究授業により個別最適な学びの充実につながった。」等の肯定的な回答が70%未満		1	コーチング指導中心の個別最適な学びの実施率60%未満						
生活指導等	いじめ、不登校の予防や解決に向けた組織的な取組を行う。 ○校内委員会を軸として組織的に対応する。	○毎月定期的及び臨時的いじめ、不登校に関する校内委員会で予防策や解決策を策定し、学校全体で実行する。	4	教アで「校内委員会により迅速で組織的な対応が行えた。」等の肯定的な回答が90%以上	4	4	校内委員会で策定した対応の実施率100%	4	毎月の不登校対策委員会と臨時のいじめ対策委員会等の校内委員会で策定した対応を確実に実施することで、組織的な対応やいじめ等の未然防止を行うことができた。	引き続き、不登校傾向になりそうな生徒やいじめの疑いの認知把握を行い、組織的な対応を通して、さらなる未然防止を行っていく。	A	A	・学校、地域、保護者の連携を意識して、今年度PTAでも取り組んできた。ここの「ONE TEAM」になって連携を図れてきた。今後も生徒の様子等、気づいたことを学校に報告してどんどん発信して、よりよい本所中学校にしていきたい。
			3	教アで「校内委員会により迅速で組織的な対応が行えた。」等の肯定的な回答が80%以上		3	校内委員会で策定した対応の実施率90%以上						
			2	教アで「校内委員会により迅速で組織的な対応が行えた。」等の肯定的な回答が70%以上		2	校内委員会で策定した対応の実施率80%以上						
			1	教アで「校内委員会により迅速で組織的な対応が行えた。」等の肯定的な回答が70%未満		1	校内委員会で策定した対応の実施率70%以上						
	基本的な生活・社会習慣、人間関係づくりのための心の教育に取り組む。 ○特別の教科道徳を中心に学校全体で規範意識や思いやりの心等を育む。	○生徒アンケート等により心の状況を把握し、心に寄り添う内容の道徳の授業を展開する。	4	教アで、「学校全体の取組が生徒の心の育成につながった。」等の肯定的評価が90%以上	4	4	特別の教科道徳等の道徳教育年間計画の実施率90%以上	4	年間計画通りに学習を進め、基本的な生活習慣や人間関係づくりのための教育を実施することができた。また、道徳の授業に関する生徒アンケートでの肯定的回答が91%、保護者アンケートでの肯定的回答が80%となった。	引き続き、生徒の心の状況を把握し、心に寄り添う内容の道徳科授業を展開できるよう、生徒アンケートを活用して、実態を把握し、授業改善を行っていく。	A	A	・生徒の心に寄り添う教育は必要である。道徳科の授業で、教員の体験談等を交えて話をしてもらえると生徒が身近に感じて、自分事として捉えることができると思う。
			3	教アで、「学校全体の取組が生徒の心の育成につながった。」等の肯定的評価が80%以上		3	特別の教科道徳等の道徳教育年間計画の実施率80%以上						
			2	教アで、「学校全体の取組が生徒の心の育成につながった。」等の肯定的評価が70%以上		2	特別の教科道徳等の道徳教育年間計画の実施率70%以上						
			1	教アで、「学校全体の取組が生徒の心の育成につながった。」等の肯定的評価が70%未満		1	特別の教科道徳等の道徳教育年間計画の実施率70%未満						
	危機回避能力の育成や生徒の安全を確保するための取組を行う。 ○毎月の安全指導を中心に、生活安全、交通安全、情報安全、災害安全の指導を行う。	○安全指導年間計画並びに東京都・墨田区施策のセーフティ教室等の安全指導を専門機関等と連携して実施する。	4	教アで、「安全指導が生徒の危機回避能力向上につながった。」等の肯定的評価が90%以上	4	4	年間指導計画の各安全指導の実施率90%以上	4	年間計画通りに安全指導を進めることができた。また、安全指導等に関する生徒アンケートでの肯定的回答が98%、保護者アンケートでの肯定的回答が78%（「わからない」の回答が18%）となった。	本校を取り巻く環境等を踏まえ、避難訓練等の内容を見直し、生徒の危機回避能力の育成に向けて取り組んで行く。また、安全指導等の取組を保護者に紹介し、理解を図っていく。	A	A	・月に一度の避難訓練で防災について確認できることはよい。避難所設営等の地域と連携した防災訓練も大切になってくる。
			3	教アで、「安全指導が生徒の危機回避能力向上につながった。」等の肯定的評価が80%以上		3	年間指導計画の各安全指導の実施率80%以上						
			2	教アで、「安全指導が生徒の危機回避能力向上につながった。」等の肯定的評価が70%以上		2	年間指導計画の各安全指導の実施率70%以上						
			1	教アで、「安全指導が生徒の危機回避能力向上につながった。」等の肯定的評価が70%未満		1	年間指導計画の各安全指導の実施率70%未満						

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価				
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等		
	学校経営方針に基づいた、組織的な教育活動や学校運営を行う。 ○管理職・主幹教諭の会議を中心に組織的に学校経営方針の実現を図る。	○毎週の経営会議（管理職・主幹教諭）で課題の改善策等を打ち出し、月1回の企画会議（分掌主任・学年主任等）で具体策を決め、翌週の職員会議で周知して実行に移すサイクルを確立する。	4	教アで、「学校経営サイクルで組織的な教育活動等が充実した。」等の肯定的回答が90%以上	3	4	学校経営サイクルの実施率100%	3	学校経営サイクルを実施することができ、組織的な教育活動が行えたが、教職員アンケートでの肯定的回答が88%であった。さらに数値を上げるために、現在の業務において効率化や短縮化できることを検討し、推進する。	学校経営サイクルを実践し、効率的に運営を行うことで、会議の回数を減らし、教職員の働き方改革を実現させる。そして、生徒の指導や教育活動への時間を増やしていく。	A	A	・いい学校にさせていただき、感謝している。
			3	教アで、「学校経営サイクルで組織的な教育活動等が充実した。」等の肯定的回答が80%以上		3	学校経営サイクルの実施率90%以上						
			2	教アで、「学校経営サイクルで組織的な教育活動等が充実した。」等の肯定的回答が70%以上		2	学校経営サイクルの実施率80%以上						
			1	教アで、「学校経営サイクルで組織的な教育活動等が充実した。」等の肯定的回答が70%未満		1	学校経営サイクルの実施率80%未満						
学校の管理運営	生徒の実態に合わせた教育目標の設定及び学校評価を適切に行う。 ○生徒アンケートや保護者・学校運営連絡協議会による学校評価等を踏まえて教育目標等を適切に見直す。	○年間に位置付けた、生徒が回答する学校生活や授業に関するアンケート、学校評価における保護者アンケート、学校運営連絡協議会の評価・意見等により教育目標等の見直しを図る。	4	教アで、「アンケートや評価が教育目標等の改善につながった。」等の肯定的回答が90%以上	4	4	アンケートや学校評価の各結果を踏まえた検討の実施率100%	4	生徒や保護者アンケートを実施することで、学校の改善点を把握でき、次年度に向けて教育活動を見直すことができた。教職員アンケートでの肯定的回答は96%となった。	次年度では、生徒アンケートの「自分への自信」に関する質問の肯定的回答を上げる。そのためには、行事や学校生活において、生徒が主体的となる活動を増やし、教職員が一人となって生徒一人一人の活躍を理解する取組を実施する。	A	A	・全体的によくできている。生徒、保護者、教員等の評価も高く、統一感が感じられる。これからも現状維持とさらに向上を目指してもらいたいと思う。
			3	教アで、「アンケートや評価が教育目標等の改善につながった。」等の肯定的回答が80%以上		3	アンケートや学校評価の各結果を踏まえた検討の実施率90%						
			2	教アで、「アンケートや評価が教育目標等の改善につながった。」等の肯定的回答が70%以上		2	アンケートや学校評価の各結果を踏まえた検討の実施率80%						
			1	教アで、「アンケートや評価が教育目標等の改善につながった。」等の肯定的回答が70%未満		1	アンケートや学校評価の各結果を踏まえた検討の実施率70%						
			4	教アで、「環境・設備の充実・改善を図ることができた。」等の肯定的回答が90%以上		4	予算内で対応可能な充実・改善策の実施率90%以上						
3	教アで、「環境・設備の充実・改善を図ることができた。」等の肯定的回答が80%以上	3	予算内で対応可能な充実・改善策の実施率80%以上										
2	教アで、「環境・設備の充実・改善を図ることができた。」等の肯定的回答が70%以上	2	予算内で対応可能な充実・改善策の実施率70%以上										
1	教アで、「環境・設備の充実・改善を図ることができた。」等の肯定的回答が70%未満	1	予算内で対応可能な充実・改善策の実施率70%未満										
	教育方針や日常の教育活動の様子などを工夫してわかりやすく伝える。 ○学校だよりや学校ホームページ等の広報活動の充実・改善を図る。	○経営推進支援部を中心に、学校だより等の各種通信物や学校ホームページによる広報の内容や量を充実・改善する。	4	教アで、「各種通信物や学校HP等の内容・量が充実・改善した。」等の肯定的回答が90%以上	4	4	学校便り等の情報量が前年度比およそ150%以上	4	学校便りや学校ホームページ等で教育活動の紹介をすることで、広報活動の充実を図ることができ、保護者アンケートでの肯定的回答が88%となった。	学校ホームページの「学校日誌」や各種通信物の内容に普段の授業の様子を紹介していく等、内容の充実を図り、広報活動の情報量をさらに多くしていく。	A	A	・引き続き、学校便りや学校ホームページの内容の充実を期待している。
			3	教アで、「各種通信物や学校HP等の内容・量が充実・改善した。」等の肯定的回答が80%以上		3	学校便り等の情報量が前年度比およそ140%以上						
			2	教アで、「各種通信物や学校HP等の内容・量が充実・改善した。」等の肯定的回答が70%以上		2	学校便り等の情報量が前年度比およそ130%以上						
			1	教アで、「各種通信物や学校HP等の内容・量が充実・改善した。」等の肯定的回答が70%未満		1	学校便り等の情報量が前年度比およそ120%以上						
			4	教アで、「各組織等との連携がより深まった。」等の肯定的回答が90%以上		4	保護者ア等の「より連携が深まった。」等の肯定的回答が90%以上						
3	教アで、「各組織等との連携がより深まった。」等の肯定的回答が80%以上	3	保護者ア等の「より連携が深まった。」等の肯定的回答が80%以上										
2	教アで、「各組織等との連携がより深まった。」等の肯定的回答が70%以上	2	保護者ア等の「より連携が深まった。」等の肯定的回答が70%以上										
1	教アで、「各組織等との連携がより深まった。」等の肯定的回答が70%未満	1	保護者ア等の「より連携が深まった。」等の肯定的回答が70%未満										
家庭・地域連携	保護者や地域からの意見・要望を把握し、教育活動の点検と改善に役立てる。 ○保護者・地域の意見を適宜反映し、アンケートや学校評価を踏まえて翌年度の教育活動等を見直す取組を行う。	○毎週の経営推進支援部会を中心に、速やかに対応が可能な意見等は対応策を実行し、学校全体に関わる内容等は学校経営サイクルの中で対応を協議・決定し、翌年度に対応策を実行する。	4	教アで、「教育活動等への意見・要望等の反映が向上した。」等の肯定的回答が90%以上	4	4	意見・要望等に関する検討・反映等が100%	3	各行事等の事後アンケートや保護者、生徒向けの学校評価を実施し、今年度の教育活動の点検と改善、翌年度計画への反映を行うことができた。しかし、校則の見直しに関しては、生徒、保護者の意見の反映が十分ではなかった。	校則の見直し等に関して生徒、保護者の意見の反映する等、さらに保護者や地域の意見・要望を把握し、翌年度の教育活動の見直しに取り組んで行く。	A	A	・今後も地域と保護者、学校が連携をして、子供たちのために学校経営が行われることを期待している。
			3	教アで、「教育活動等への意見・要望等の反映が向上した。」等の肯定的回答が80%以上		3	意見・要望等に関する検討・反映等が90%以上						
			2	教アで、「教育活動等への意見・要望等の反映が向上した。」等の肯定的回答が70%以上		2	意見・要望等に関する検討・反映等が80%以上						
			1	教アで、「教育活動等への意見・要望等の反映が向上した。」等の肯定的回答が70%未満		1	意見・要望等に関する検討・反映等が80%未満						

○令和6年度 学校経営報告のまとめ（総括）

校長が作成した学校経営方針に基づき、学校経営サイクルを実践したことで、生徒の学力向上や教職員の指導力向上、いじめの防止、不登校生徒への対応等、組織的かつ効率的に学校運営を行うことができた。また、保護者や地域と協働して教育活動を進めることができ、連携を図ることができた。生徒の主体性の向上や教員の授業展開の工夫には課題が残ったので、次年度は生徒の考えや意見を反映させた教育活動の充実を図っていく。